

3.2 大学図書館における情報リテラシー教育の実際

京都大学附属図書館情報サービス課長

片山 淳

1. はじめに

2. 情報リテラシーとは

2-1. リテラシーとは

- ・ 3R (Reading, writing, arithmetic)
- ・ 読み、書き、そろばん
- ・ 日常生活の中で役立てることができる基礎的な学力

2-2. コンピュータリテラシー

- ・ コンピュータを使って何ができるか、できないのかを知る
- ・ 情報技術と付き合うための技術リテラシー（基礎的なスキル）

2-3. メディアリテラシー

- ・ マスメディアから情報を批判的に解釈しながら受け取る能力
- ・ 情報を運ぶさまざまな媒体（メディア）をうまく使いこなし必要な情報を入手する

2-4. 情報リテラシー

- ・ 「コンピュータ」という「メディア」を使って「情報」を活用する能力
- ・ 「情報」の選択、探索、収集、整理、分析、発信（表現）する能力
- ・ 「情報リテラシー」が指す内容：用語自体が曖昧で、多義的
- ・ 「情報を取り扱う上での理解、さらには情報及び情報手段を主体的に選択、収集、活用、発信するための能力と意欲」
- ・ 「情報リテラシーの育成には、関連知識と機器の操作技能とを習得することに加え、その知識と技能とを自らの社会生活の中で活かすことができる実践力が欠かせません」
- ・ 溢れるほど豊富な情報に埋没することなく主体的に学習を進めてゆくための基礎的能力

3. 大学図書館における展開

3-1. 大学図書館の情報リテラシー支援活動に関する定義

- ・ IFLA : Guidelines for Library-based Literacy Programs
- ・ ACRL : Association of College and Research Libraries

情報リテラシーをコンピュータリテラシー、技術そのものの理解(Fluency with Technology)と区別したうえで、「人々が、情報が必要なときを認識し、必要とする情報の所在がわかり、その情報を評価し、効果的に利用するに至る一連の能力」

・ 5つの基準 (Standards): 支援事業の目標 = 情報リテラシーを備えた学生の能力「高等教育のための情報リテラシー能力基準」(ACRL. Information Literacy Competency Standards for Higher Education / approved by ACRL Board. January 18, 2000)

- 1 . コストや便益を考慮して必要とする情報の種類、性質、範囲を決めることができる
- 2 . 必要とする情報に効果的・効率的にアクセスできる
- 3 . 情報と情報源を批判的に評価し、選択した情報を自身の知識ベースと価値体系に組み入れることができる
- 4 . 特定の目的を達成するために、個人またはグループの一員として、情報を効果的に利用することができる
- 5 . 情報の利用、アクセスに関する多くの経済的、法律的、社会的な問題を理解し、倫理、法律にかなった方法で情報を利用することができる

・ 22 項目の達成指標 (Performance Indicators) 含まれる成果 (Outcome Include)

・ 背景: ボイヤー委員会報告書『学部教育の改革』

「...方式で構成されるコースは、質問が当たり前で、問題解決が焦点となり、批判的思考がプロセスの一部となる学生中心の学習環境を形成する。この学習環境が情報リテラシー能力を要求する。」

3 - 2 . 我が国における情報リテラシー支援活動の展開

外的要因: 大学教育改革の流れ

- ・ 大学設置基準の大綱化 (1 9 9 1)
- ・ 大学審議会答申『21世紀の大学像と今後の改革について』(1 9 9 8)
- ・ 大学審議会答申『グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について』(2 0 0 0)
- ・ 学術審議会建議『大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について』(1 9 9 6)

内的要因: 図書館資料のハイブリッド化

- ・ 急速な情報化の進展による情報量の増大と情報の半減期の短縮
- ・ 情報と利用者を結びつける役割の根底に横たわるもの

3 - 3 . 大学図書館における情報リテラシー教育支援

大学教育においても情報リテラシー教育の重要性が意識されるようになり、そのプロセスに何らかの形で図書館組織が関係する事例が数多く見られる

正規の講義 (全学共通科目など)

ワークショップ形式

ガイダンス
ツアー
Web 上での取り組み
シラバスとの連携

3 - 4 . 学習支援、研究支援、社会貢献としての取組（事例 1）

- ・情報基盤の充実
 - 三つのキーワード（インフラ、コンテンツ、リテラシー）
- ・総合情報メディア館構想の中で
 - 情報処理センターとの協力
 - コンテンツの充実（電子ジャーナルやデータベースの導入から普及へ）
- ・図書館が推進する情報リテラシー教育支援活動における 3 局面
 - 学習支援
 - 研究支援
 - 社会貢献

3 - 5 . 情報基盤整備の流れの中に位置づけた取組（事例 2）

- ・図書館経費として財政基盤を確立させた事例
 - 電子ジャーナル、各種文献情報データベース、学生用図書購入経費、遡及入力経費など
- ・情報基盤センターとの連携・協力
 - 副館長、研究開発室教員、情報基盤センターと協力した情報リテラシー教育
- ・サブジェクトライブラリアン（図書館職員の専門性を発揮した形）
 - 直面する問題に積極的に取り組む図書館職員
- ・情報リテラシー教育（支援活動）の年間計画
- ・情報リテラシー教育講習会：アンケート結果から

4 . 京都大学における実践例

4 - 1 . 全学共通科目「情報探索入門」の開講

- ・提供部局：附属図書館
- ・図書館長以外で 5 名の教員による講義
- ・学内の図書館職員による演習
- ・演習毎のレポートの提出 評価の材料に
- ・レファレンス事例集「access.txt：文献調査・利用ガイド」(Version 7)
- ・講義録「大学生と『情報の活用』：情報探索入門」(第 3 版)

4 - 2 . 講義のテーマ

- 「図書館情報、図書館の種類とその機能」(館長による講義のみ)
- 「分類の一般概念と分類理論」(情報学研究科)
- 「参考資料の種々とその利用」(人間・環境学研究科)
- 「インターネット情報およびデータベースとその活用法」(薬学研究科)
- 「学問・研究・文献・情報」(情報学研究科：講義のみ)
- 「目録情報とその利用」(教育学研究科)

4 - 3 . 演習の内容

- 「分類の一般概念と分類理論(演習1)」(附属図書館4、総人、法)
- 「参考資料の種々とその利用(演習2)」(附属図書館3、総人、法、文、経)
- 「インターネット情報およびデータベースとその活用法(演習2)」(附属図書館6、情報学)
- 「目録情報とその利用(演習1)」(附属図書館2、文、経、情報学)

4 - 4 . 学術情報メディアセンターなどとの協力関係

- ・情報学研究科や学術情報メディアセンターを中心とする情報科学関係の授業
- ・全学共通科目の中の情報科学
- ・研究開発室の活動

4 - 5 . 講義終了時点での受講生アンケート

- ・学生が図書館機能を有効に使った情報探索のスキルを身につけるために役立っている

4 - 6 . 図書館独自に企画・実施している情報リテラシー教育支援活動

- ・リテラシー教育支援活動の対象(誰に)
- ・何時、どこで、どのように(年間スケジュール、実践そして柔軟な対応、評価から計画へ)
- ・ガイダンスとツアー
- ・講習会(定期講習会、出前講習会)
- ・ワークショップ
- ・ポケットゼミナール

4 - 7 . これまでの実績と今後の課題

- ・これまでの実績(平成10年度から7年目)
- ・今後の課題
教員との協力関係、図書館職員の処遇、カリキュラムの見直し、図書館開講科目？
テキストの電子化、講義録、体制の整備、図書館員のためのレファレンス・ガイド

5. 最後に(まとめとして)

大学図書館間の連携・協力は今後も重要

大学図書館は、内・外の情報資源(コンテンツ)へのアクセスをいかにして確保するか、しかも系統性をもたせ、継続して研究成果を社会に発信する支援をするか 課題

アクセス可能な情報資源の調達、情報発信システムの形成などから、情報活用の支援方策となる利用指導や評価方法についても連携・協力の中で進める

図書館と教員組織である学部との連携・協力が要

利用者の教育や適切な情報資源の確保のためには、図書館と学部(教員組織)の連携・協力が要、図書館委員会(運営委員会、商議会など)という運営方針レベルだけでなく、普段からの実務的な関係の構築を図っていく

情報リテラシーを実践的に身に付ける場としての大学図書館

利用者が、容易に、自ら学ぶための環境をつくるという視点から、図書館のサービス機能や環境などを普段から点検し、改善する、そのような実践の場としての図書館

大学図書館のコア・コンピタンスとしての情報リテラシー教育支援活動

大学図書館が包まれている環境と効果的に相互作用する有機体の能力 コンピタンス

大学図書館のコンピタンスの核 情報リテラシー教育支援活動

[参考文献]

1. 木村忠正『デジタルデバイドとは何か』岩波書店 2000.1
2. 山内祐平『デジタル社会のリテラシー』岩波書店 2003.4
3. 内木哲也、野村泰朗著『情報の基礎・基本と情報活用の実践力』共立出版 2004.1
4. IFLA. Guidelines for Library-based Literacy Programs 「図書館におけるリテラシープログラムのガイドライン」 www.ifla.org/VII/s33/project/literacy.htm
5. ACRL. Information Literacy Competency Standards for Higher Education / approved by ACRL Board. January 18, 2000 「高等教育のための情報リテラシー能力基準」
www.ala.org/ala/acrl/acrlstandards/informationliteracycompetency.htm
6. ボイヤー委員会報告書『学部教育の改革』<http://naples.cc.sunysb.edu/Pres/boyer.nsf/>
7. 野末俊比古『利用者教育 - 「情報リテラシー」との関わりを中心に』カレントアウェアネス No.278 2003.12 www.ndl.go.jp/jp/library/current/no278/doc0008.htm
8. 図書館利用教育ガイドライン - 大学図書館版 日本図書館協会 1998
9. 杉田いづみ『三重大学附属図書館における情報リテラシー教育支援の実践と評価の試み:「授業と連携した」情報リテラシーを中心に』2004.1 学術情報リテラシー教育担当者研修事例報告 www.lib.mie-u.ac.jp/iln/nii_literacy_h15.pdf
10. 木下聡『三重大学附属図書館における情報リテラシー教育支援』平成 15 年 9 月 2003.9 大

学図書館研究集会事例報告 www.jla.or.jp/daigaku/kinoshita.pdf

1 1 . 南俊朗、喜田拓也『図書館における情報リテラシー教育と情報検索講習会』(九州大学情報基盤センター広報学内版 vol.2 no.1)<http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/koho/genkoVol2No1/kida.pdf>

1 2 . 監修：長尾眞、編集：川崎良孝『大学生と「情報の活用」：情報探索入門：京都大学全学共通科目講義録』 増補版 京都大学図書館情報学研究会 2001.4

1 3 . 『access.txt：文献調査・利用ガイド』 version 7 京都大学附属図書館 2004.4

1 4 . 小林麻美「コア・コンピタンスとアウトソーシング」平成11年9月『第17回大学図書館研究集会』講演記録

1 5 . Sheila Corral : Rethinking professional competence for the networkd environment. IN Oldroyd Margaret (ed.) Developing academic library staff for future success. Facet Publishing, 2004. p.15-39 (翻訳：加藤信哉山形大学附属図書館情報管理課長)